

南信州広域連合第3回広域連合会議 結果報告

日時：令和元年6月19日(水) 15:00～15:51

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】14市町村長

〔南信州地域振興局〕土屋局長

〔飯田建設事務所〕丸山所長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔町村会〕岡庭事務局長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長

〔飯田環境センター〕北原事務局長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤次長補佐兼庶務係長

櫻井次長補佐兼広域振興係長・秋山介護保険係長・宇佐美庶務係主事

1 開 会…15:00

2 広域連合長あいさつ

昨日、山形・新潟で大きな地震があり、人的被害はそれほど大きくはないようだが、梅雨の時期もあり次の災害に備えて地元では警戒しているという話を村上市の高橋市長から聞いている。災害時には、首長同士のネットワークが大変有効である。当広域連合でも、災害時には首長同士連絡を取り合い、助け合いながら対応していきたい。

3 協議・報告事項

(1) 南信州在宅医療・介護連携推進協議会について（資料No.1）【説明者：松江事務局次長】

・多職種研修会について

7月13日(土)14時から豊丘村保健センターにて「食に関する多職種連携研修会」を開催。

・協議会の事業報告及び今後の取り組み概要について

事業項目は8項目

*地域の医療・介護の資源の把握

平成29年度までに把握が完了し、ホームページに掲載し閲覧可能となっている。

*在宅医療・介護連携課題抽出と対応策検討

人材確保が大きなテーマとなっている。

看護師については、看護師等確保対策修学資金を平成29年度から始め3年目となり、今年が見直し時期。

介護職については、昨年度協議会の中に介護人材確保対策ワーキンググループを立ち上げ、1年かけて検討してきた。今年度は具体的な取り組みを実施していく。

*切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

退院調整ルールを策定、連携シートを用いて行っているが、まだまだ活用されていない。

*医療・介護関係者の情報共有の支援

ism-Linkの利用者及び登録施設が増えてきている。利用者等が増えた分、情報漏洩が危惧されるため、セキュリティ対策を検討していく。

障害者サービスまで広げていくことが可能か研究していく。また、薬剤師会の電子お薬手帳との

連携にも取り組んでいく。

＊在宅医療・介護連携に関する相談支援

現状、特定の窓口がない。需要が出てきたところで、新たに検討していけるよう整備していく。

＊医療・介護関係者の研修 ＊地域住民への普及啓発

この2項目は、「食に関する多職種連携研修会」を行い取り組んでいる。

・介護人材確保対策ワーキンググループについて

介護職の奨学金制度については、県社福事業団に「介護福祉士修学資金等貸付制度」があるが、まだまだ活用されておらず、認知もあまりされていないので、こちらを紹介して活用推進していく。

離職防止対策については、メンター制度の導入、中堅職員の育成、社会人としての新人教育等の研修会を実施していく。

外国人の受け入れ・人材確保については、法人ごとに対応をしており、広域的に何かを行うということは難しい状況にある。まずは、現状確認を行っていく。

若い世代への取り組みは、広域連合の広報誌などで情報発信を積極的に行っていく。

シニア世代の入職措置は、シルバー人材センターでアシスタント講習を開催している。介護事業者に実情を聞くなどして対応を検討していく。

介護職員の処遇改善加算の取得推進については、各事業所の経営・人事担当者への経営セミナーを開催していく必要があると考えている。

このように介護職については、一定の方向性は出ているが具体的な取り組みはこれからになる。

→ 説明内容確認、質疑なし

(2) 南信州地域の高校の将来像を考える協議会について（資料No.2）【説明者：高田事務局長】

6月5日に南信州地域の高校の将来像を考える協議会第1回会議を開催している。

委員は、各県立高校がある4市町村長、教育長代表、産業界代表、学校代表、PTA代表、有識者といった者で構成。会長は広域連合長、副会長は教育長代表、産業界代表。

・県から示された「旧第9通学区の再編計画の方向性」をたたき台として、何を検討するか協議を行った。

＊県の資料による現況・課題

中学校卒業生数が2033年には2017年の約68%まで減少する見込み。

南信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ250人程度が進学している。

この圏域の現段階では概ね適正な規模を有しているが、将来的には学校規模の縮小が想定される。

南信地区の多部制・単位制高校として箕輪進修高校が配置されているが、地理的にこの地区からの通学が困難であり、検討が必要な状況にある。

＊県の資料による再編計画の方向

今後の少子化の進行の中で、この地区の学校規模の縮小を見据えた地域全体の高校の将来像について検討を進め、地域の合意形成を図っていく必要がある。

定時制を単位制へ移行する等、多部制・単位制の機能を補完する仕組みを検討していくことが考えられる。

＊協議会では、課題・現状整理をして今後の検討について問題提起をしていくこととする。

協議会の義務教育側から、OIDE長姫高校定時制の機能を強化する形で多部制あるいは単位制の機能を付加できないかという意見が出された。

協議会としては、OIDE長姫高校の定時制の機能強化をしていくということで、次回以降協議を進めていく。

・検討スケジュール（案）について、7、9、10、11、12月に協議会を開催していく。意見交換を行いながら、県への「意見・提案」の整理を年末までに行う。秋以降は、団体や同窓会からの意見の聴取、住民説明会、議会への説明等もしていく。

(主な意見等)

阿智村 : この高校再編については、大きな課題と考えているので、内部会議でも良いので取り上げて考えていただきたい。

(3) 信州木曾看護専門学校入試の広域連合推薦枠について (資料No.3) 【説明者：松江事務局次長】

昨年1名推薦をして合格。

今年は、7月3日(水)に圏域内の高校8校宛てに募集文書が郵送される予定。各校1名の推薦。

9月24日(火)に推薦者選考審査会開催。

選考委員は、副管理者、環境・福祉・医療専門部会長(根羽村長)、飯伊地区包括医療協議会事務局長、南信州広域連合事務局長、事務局次長。

広域連合の推薦枠は1名。

10月4日(金)までに、申込者へ結果通知を郵送。その後、推薦者が出願手続きを行う。

推薦の選考実施要領の申込資格について、「信州木曾看護専門学校を卒業し、看護師資格を取得した後には南信州広域連合の区域における保健、医療又は福祉の向上に貢献しようとする意志があること」を申込の条件としたいと考えている。

→ 説明内容確認、質疑なし

(4) 南信運転免許センター(仮称)の設置について(資料No.4)【説明者：高田事務局長】

○6月3日(月)に、長野県警察本部油井交通部長が来訪した際の経過説明。

・交通部長から広域連合長に提案された内容及び広域連合長の対応

*県警察としては、南信地域の実情を踏まえ、南信運転免許センターが必要であるという認識を持って、設置に向けた前向きな検討を行ってきたところである。

現在、要望をいただいている旧南信州・飯田産業センター施設に免許センターを設置することは、周辺道路等に課題があり困難と考えている。

県警察としては、要員捻出等の課題に対応するうえで、老朽化している飯田警察署の建て替えに合わせて免許センターを併設する方法が現実的と考えており、南信州広域連合及び飯田市のご理解がいただければ、この方法で検討を進めてまいりたい。

施設用地については、今後地元の意向も踏まえて検討していきたいと考えており、協議をお願いしたい。

*広域連合長の対応

運転免許センターを、改築する飯田警察署に併設という形で設置するという新たな提案と受け止める。

これまで、旧産業センター施設を運転免許センターの候補として設置要望してきた経過はあるが、飯田警察署の改築と運転免許センターの設置という2つの課題にめどが立つのであれば、それに拘ることなく前向きに検討したいと考える。

今月(6月19日)の広域連合会議で町村長と協議する。

○広域連合長から

広域連合としての対応を協議したい。

*運転免許センターを、飯田警察署に併設という形で整備するという前向きな提案であり歓迎する。旧産業センター施設に免許センターを誘致するというこれまでの方針に拘ることなく、提案の趣旨を了解する。

*提案内容が早期に実現できるよう、場所や時期等の具体的な課題について県警本部との協議を進めていく。

この2点を広域連合の確認事項としたい。

(主な意見等)

根羽村 : 南信州広域連合としては、旧産業センターを候補地として県警に要望してきたが、な

かなか具体的にならなかったという現実。そうした中で今回県警から新たに具体的な提案をいただいた。この提案を受け入れて、早期に実現できるよう要望していくのが良いと思う。

また、旧産業センターの利用については、別の場できちんと議論をして考えていく方策を取ると良い。

阿南町 : 私も同意見で賛成。

高森町 : この提案は前向きであり賛成。

いつ免許センターができるのかというのは不明な段階で、今年度飯田警察署の中に免許証の自動交付機が導入されたが、対象は優良運転者と高齢者のみに限定。違反がある者は即日交付にならない。

また、地域のみなさんが新規に免許を取得した場合に、即日交付を求めると塩尻まで行かなければならない。こういった現状を踏まえ、即日交付にならなくとも地元での試験回数を増やすとか、そういった要望もしていきながら早期に実現できるように取り組んでいただきたい。

天龍村 : 方向性は良いと思う。地元県議と連携をしていくことが非常に大切だと思うのでよろしく願いたい。

→ 提案内容確認、承認

連合長 : 確認事項(案)として提出した考え方を了解いただいたということで、今後県警本部との協議を広域連合として進めていく。県議とも連携をしっかり取り、早期の実現を目指す。

(5) 南信州民俗芸能継承推進協議会について(資料No.5)【説明者: 櫻井次長補佐兼広域振興係長】

5月28日に南信州民俗芸能継承推進協議会の総会を開催。

・今年度の取り組みについて

ロゴマークについて、関係機関、パートナー企業とともに南信州地域の民俗芸能のシンボルとして様々な場面で活用していく。

今回啓発グッズとしてロゴマークのピンバッジを作成、民俗芸能の継承に関わる関係機関や団体の長に身に付けていただき、継承活動の認知度を高めていく。

10~11月を「民俗芸能継承フェア」として、関係機関と連携し集中的な民俗芸能イベントの同時開催や民俗芸能関連行事の広報活動を実施する。

→ 説明内容確認、質疑なし

(6) 飯田広域消防本部から(資料No.6)【説明者: 赤羽目消防長】

・6月16日現在の火災発生状況について、火災発生件数65件、前年同日比15件の増、火災種別で見ると、建物火災が28件で前年同日比9件の増、林野火災は10件で前年同日比2倍となる5件の増。

消防団と連携し広報活動に重点を置いた予防活動を実施。

・熱中症疑いによる救急搬送の状況について、4月29日から6月17日までの搬送人員は16人で前年同日比1人の増。年代別搬送人員では、10歳代が9人となっており前年同日比8人の増。

熱中症予防のリーフレットをホームページに掲載するなど、熱中症の予防普及啓発、注意喚起を行っている。

→ 説明内容確認、質疑なし

(7) 南信州いいむす21登録判定について(資料No.7)【説明者: 櫻井次長補佐兼広域振興係長】

今回審査の結果、適合と認められた4件の事業所の登録について審議、承認をいただきたい。

区分は、新システムにおけるいいむす21の更新。

- ・飯田建設株式会社 76 ポイント
- ・有限会社野中製作所 本社 92 ポイント
- ・株式会社NEXAS 本社 79 ポイント
- ・株式会社NEXAS AS工場 79 ポイント

→ 異議なし、承認

(8) 共催、後援依頼について (資料No.8) 【説明者：加藤次長補佐兼庶務係長】

審査案件2件、報告案件1件

- ・報告案件について

飯田文化会館主催による元気づくり支援金活用事業で「ようこそ歌舞伎の世界へ」と題し、プロの歌舞伎役者による公演を鑑賞する催し。下伊那教育会、下伊那郡町村会等の後援を受けているもの。

印刷物作成等の都合上、申請者が先月末までの承認の可否を要望していたため、起案により個別に広域連合長の決裁を受け承認をしたもの。

- ・審査案件について

*一般社団法人長野県食品衛生協会からの申請による共催依頼。

毎年県内で開催している「食品衛生大会 (食の安全・安心フォーラム)」が、令和元年度は当地域で開催される。当番地域である南信州広域連合は、食品衛生協会に対し負担金支出をすることとなっているため共催という形で申請されたもの。当該負担金は30万円で今年度当初予算に計上済みである。

*南信州青少年育成プロジェクトによる「南信州お仕事キッズタウン」の後援依頼で、昨年も同様に申請、承認されている事業。

今年度はエス・バードで開催される。

→ 異議なし、承認

(9) その他

- ・リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討委員会について (資料No.9)

【説明者：松江事務局次長】

検討委員会が6月27日(木)午後6時から飯田市役所C棟311～313会議室で開催される。

委員の構成は、利用が想定される団体、有識者(外部)、地元関係団体、学生、公募委員、計26名と、アドバイザー2名。

→ 説明内容確認、質疑なし

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

- ・豚コレラについて

昨年9月に国内で26年ぶりに岐阜県で発生。6月13日現在で26事例、53農場、3と畜場に拡大し、10万頭を超える豚が殺処分された。県内でも今年2月には、宮田村、松本市で確認。感染が拡大した原因は、人や車両のほか、野生のイノシシが指摘されている。

豚コレラ陽性イノシシが確認された地域から半径10kmの範囲内を調査対象区域として、捕獲されたイノシシの検査を実施。陽性が出たのはいずれも岐阜県内だが、10km圏内ということで阿智村と根羽村の一部が調査対象区域。現在までの検査実施状況は、6頭検査し全て陰性という結果。陰性であるが、いつ陽性が出てもおかしくない状況。強い危機感とともに、南信州では絶対に豚コレラの発生被害を出さないという強い決意を持って関係機関と連携し対応している。

家畜防疫対策緊急支援事業として、豚コレラウイルスを保有する野生イノシシ等の養豚場への侵入防止措置に対して、費用の1/2を補助する。農家には防鳥ネット、物理柵、電気柵この3点セットの整備をお願いしたい。

・長野県営業戦略2019について

県では、長野県営業本部を立ち上げ、事務部署として営業局という組織も設置。

営業本部の役割は、県内各地の農林水産物、工芸品などを県外、世界に向けてしっかり売っていかうというもの。販路開拓、拡大、営業活動等を行い、生産から販売までの一貫したマーケティング支援を行っていく。

2019年の具体的な戦略展開の中で、重点支援として重点品目プロジェクト、育成支援品目プロジェクトを掲載。その品目の中には、南信州産の物も多くある。

こういった組織、取り組みを最大限活用し南信州地域の振興に繋げていく。

(主な意見等)

高森町 : 外にマーケティングを求めて売っていくのではなく、人間同士の関係性を作るような営業を是非行っていただきたい。

土屋振興局長 : わかりました。県でも地産地消といった取り組みを行っているので、この地域に来て消費をさせるということが大事ということもあるので、今の意見を踏まえながら営業局と連携していきたい。

広域連合長 : 豚コレラについて、畜産農家はワクチンを打たしてもらいたいと言っている。畜産農家からすればワクチンを打てば済むことがわかっている。

土屋振興局長 : 畜産農家の声は承知している。ワクチンは国の方針だが、県庁とも情報を共有していきたい。

(2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし

(3) 飯田保健福祉事務所

9月～11月、健康づくり県民運動信州ACEプロジェクト「サキベジ・エースで健康」を実施する。ウォーキング大賞、サキベジ大賞というものがある。いずれも大勢の方に参加していただきたい。

厚生労働省からは、1日8,000歩は歩くように示されているが、車社会の当地域では1日3,000歩位しか歩いていない。私の提案としては、12,000歩に自分の年齢かける100を足して、50歳の方だと12,000歩から17,000歩を目標として歩いていただきたい。

5 当面の日程について

6月22日(土) リニア時代に向けた新施設の整備に関する住民説明会 14:00(エス・バード)

6月27日(木) リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討委員会 18:00(飯田市役所)

6 閉会…15:51